
祝河野夜兔追悼記念コント

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

祝河野夜兔追悼記念コント

【コード】

N9400N

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

20枚完結予定です。河野夜兔が他界したところから物語は始まる。

河野夜兔は入院して一カ月後、他界した。死因は不明である。

葬儀にはたくさんの人が参列した。その中の一人、親友の猫ばかは怒りと悲しさがぐちゃぐちゃになって、葬儀場で自作のゴリラダンスを踊り始めた。

「うほ！うほ！うほ！」

「こつこつ猫ばか！やめなさい！やめなさい！」

棺おけの中で、ぷぷぷと笑う夜兔。いや死んでるので笑うというのはおかしい。夜兔の魂が笑ったというべきか。まだこの世に未練があり、魂がまだ残っているのだ。

「弔電を読み上げます。ごはんライス様からです」

あ。ライス先生だ。何かな。と夜兔は思った。

「戦友河野夜兔の死、大変悔しいです。本日は葬儀に参列したかったのですが、近所のラーメン屋が開店して半額サービスになっているので行かなければいけません。ごめんなさい」

夜兔は殺すと叫んだ。

叫んだと言っても魂が叫んでるだけなので、声は誰にも聞こえないのだが。

「続いて、トモチュー様からです」

あ。トモチューも。何だろう。

「姉のような河野夜兔さんの死、やりきれません。本日は葬儀に参列しなかったのですが、初めてできた彼女と初デートのため参列できません。申し訳ございません」

夜兔は完全にキレた。うわあああああああと叫んだ。

声は聞こえない。しかし会場がちよつと震えた。

「夜兔ちゃんの怨霊かなあ」

夜兔はやばいと思って静かにする。

お経を読んで坊主。近くでよく聞くと、ヒップホップ。ふざけて

る。夜兎は棺おけの中で舌打ちする。
夜兎は見えてないが、遺影もふざけてる。夜兎の水着写真なのだ。
ちなみに夜兎のお母さんは参列していない。ライスとラーメン屋へ
行ってるのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9400n/>

祝河野夜兔追悼記念コント

2010年10月9日12時35分発行